

(2) 歯と口腔の健康づくりの推進

目指す姿

誰もが自分の歯を大切に思い、ライフステージに応じた口腔ケアに努めています。

現状と課題

- 歯と口腔の健康を保つことは、いつまでも自分の歯でおいしく食事をすることや、会話を楽しむなど、精神的にも社会的にも健康で豊かな人生を送るための基礎となるものです。歯を喪失する主な原因である歯周疾患は歯を失うだけでなく、糖尿病、動脈硬化など全身の健康に影響を及ぼします。歯周病検診は、歯周病の早期発見・早期治療につながり、重症化を防ぐための重要な取り組みです。本市においては、歯周病検診を国が実施する対象者よりも拡大し、30歳からの5歳刻みの年齢を対象に無料券を交付するなど積極的な受診勧奨に取り組んでいます。しかしながら、受診率は低調な状況が続いており、さらなる口腔ケアの重要性に関する意識啓発が必要です。
- 本市では、母子健康手帳交付時や母子保健教室、幼児健康診査等を活用し、妊娠期からの歯科保健に積極的に取り組んでおり、1歳6か月児健康診査時の虫歯のない子どもの割合は国や県の平均を上回っています。一方、3歳児、12歳児へと年齢が進むにつれ、虫歯のない子どもの割合が低下し、国や県の平均を下回っており、成長段階に応じた口腔ケアの定着や歯の健康づくりが課題となっています。
- 妊娠中は、ホルモンバランスの変動により、口腔内の環境が変化することにより、虫歯や歯周病になりやすい傾向があります。そのため、本市では、妊婦歯科健康診査を実施し、妊婦の健康維持と健康増進、かかりつけ歯科医の重要性の周知に取り組んでおり、継続的な意識啓発が必要です。
- 高齢期においては、咀嚼機能や嚥下機能といった口腔機能の低下は、栄養状態や運動機能の密接な関連性を有し、要介護のリスクを高めます。市ではサロンへの歯科衛生士の派遣や口腔体操カレンダーの周知等に努めていますが、今後はより一層の口腔機能を維持・向上させるための取り組みが必要です。

①歯と口腔の健康づくりの推進

- ▶母子健康手帳交付時や母子保健教室などの機会を捉え、妊婦や乳幼児の歯科健康診査や口腔・嚥下機能の発達など口腔ケアの重要性について啓発を行います。[施策：2211](#)
- ▶成人保健事業を通じて、歯と口腔の健康の重要性を啓発します。[施策：2212](#)
- ▶歯の健康に関する正しい知識の定着を図るため、「よい歯の児童生徒の審査並びに表彰」及び「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」を実施します。[施策：2213](#)
- ▶「ほけんだより」を通じて歯の健康の大切さを周知するとともに、歯科検診により早期発見、早期治療をすすめます。[施策：2214](#)
- ▶保育の中で歯磨きの習慣を身につけさせ、年齢に応じた歯磨き指導を行います。[施策：2215](#)
- ▶亀山歯科医師会や介護予防事業所等との関係機関と連携し、高齢者の口腔機能向上において介護予防教室等の利用促進に取り組みます。[施策：2216](#)
- ▶医療専門職が通いの場等で、オーラルフレイル（加齢に伴い口腔機能が虚弱な状態）予防の普及啓発に努めるとともに、オーラルフレイルの対応が必要な人を把握し、必要なサービス等へ繋がります。[施策：2217](#)

②歯周病検診の受診率向上

- ▶健康教室等の機会や市の広報・ホームページ、ケーブルテレビ等を活用し、定期的な歯周病検診や予防措置の重要性について、意識啓発に取り組みます。[施策：2221](#)
- ▶歯周病検診の受診率向上を図るため、未受診者への再勧奨通知や市の広報等を利用した周知を行うとともに、亀山歯科医師会との連携のもと、節目年齢での無料検診を進めます。[施策：2222](#)